

離島一斉 TNR に関する実態調査

～さくらねこの島のその後～



2014 年～2021 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」による一斉 TNR を行った離島に対し、アンケートによる事後調査を実施した。

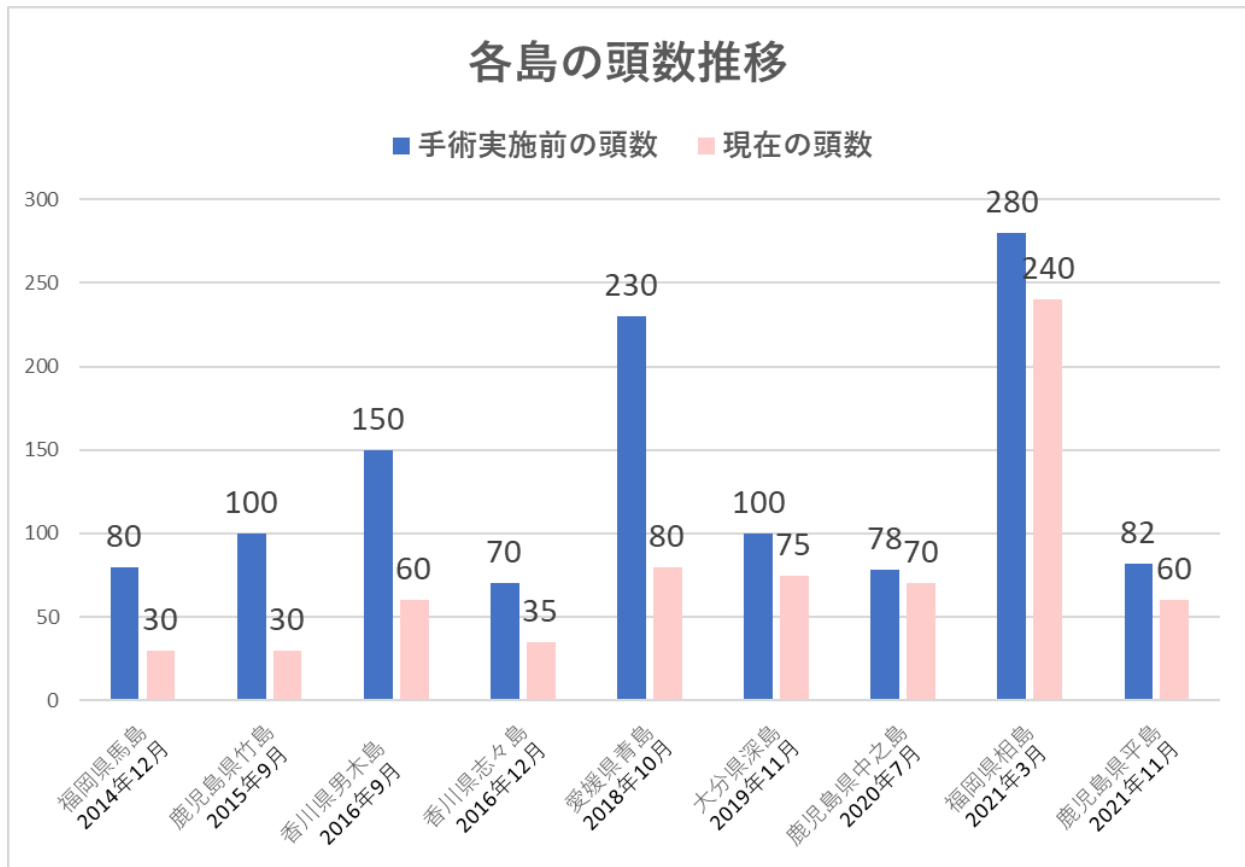
一斉 TNR を実施した島

2014 年 12 月	福岡県馬島（実施頭数：79 頭）
2014 年～2015 年（全 6 回）	鹿児島県徳之島（実施頭数：2,136 頭）
2015 年 9 月	鹿児島県竹島（実施頭数：92 頭）
2015 年 6 月、2016 年 9 月	香川県男木島（実施頭数：141 頭）
2016 年 12 月	香川県志々島（実施頭数：68 頭）
2018 年 10 月	愛媛県青島（実施頭数：172 頭）
2019 年 11 月	大分県深島（実施頭数：68 頭）
2020 年 7 月	鹿児島県中之島（実施頭数：78 頭）
2021 年 3 月	福岡県相島（実施頭数：150 頭）
2021 年 11 月	鹿児島県平島（実施頭数：82 頭）

※徳之島（赤字）は回答なし
 ※実施頭数には耳カットのみを含む



1. 各島の猫（飼い猫含む）の頭数推移



※年月は最終実施月

＜各島の頭数減少率＞

島名	経過年数	減少率	島名	経過年数	減少率
福岡県馬島	約 8 年	62.5%	愛媛県青島	約 4 年	65.2%
鹿児島県徳之島	約 7 年	回答なし	大分県深島	約 3 年	25%
鹿児島県竹島	約 7 年	70%	鹿児島県中之島	約 2 年	10%
香川県男木島	約 6 年	60%	福岡県相島	約 1 年半	14.2%
香川県志々島	約 6 年	50%	鹿児島県平島	約 1 年	26.8%

一斉 TNR を実施後 4 年以上経過した島（馬島、竹島、男木島、志々島、青島）では、減少率が 50%を超えている。実施後 3 年以内では、深島が約 3 年で 25%減、中之島は約 2 年で 10%減、相島は約 1 年半で 14.2%減、平島は約 1 年で 27%減である。減少率に差はあるが、どの島も確実に頭数が減っていることが分かる。2022 年 10 月現在、竹島に 3 頭、男木島に 1 頭、青島に 8 頭、相島に 4 頭、未手術の猫(飼い猫含む)が残っている。

2. 一斉 TNR 後の新たな猫の流入について

一斉 TNR 後に新たな猫の流入があったか	回答数
あった	2
なかった	7

男木島で島外からの遺棄が 1 頭あった。

馬島では、フード代や不妊手術費用などを負担することを条件に、ボランティアが行き場のない猫 5～6 頭を引き受けたケースがあった。

3. 一斉 TNR 後の猫の変化について

一斉 TNR 後の猫の変化について	回答数
猫の性格が穏やかになった	8
さかり声が減った・ほぼ無くなった	8
尿臭が激減した	7
猫の健康状態が良くなった	6
猫の数が減ってきた	8

一斉 TNR 後の猫の変化について尋ねたところ、8 島が「猫の数が減ってきた」と回答。鳴き声や糞尿被害が島民同士のトラブルのもとになっていた島もあったが、改善が見られ、苦情も減っている（※「5. 島民とボランティアの関係の変化」参照）。



4. 島民と猫の関係の変化について

一斉 TNR 後の島民と猫の関係について	回答数
良くなった	5
変わらない	4
悪くなった	0

TNR 後に島民と猫の関係が悪化したとの回答はなかった。TNR によって糞尿被害や鳴き声の問題などは改善されることが多く、こういった効果から猫への感情が和らぐ島民もいるであろうことが想像できる。

5. 島民とボランティアの関係の変化について

一斉 TNR 後、島民との関係にどのような変化があったか	回答数
島民の理解が得られた	8
苦情が減った	7
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	4
協力してくれるひが増えた（できた）	7
地域の人に感謝された	6
猫を可愛がってくれる人が増えた	4

上記以外の回答では、「猫に対する虐待行為はいけないことだと認識されるようになった」というものがあった。そのほか、「手術後、病気やケガをした猫を動物病院へ連れていくことが普通になり、退院した猫のお世話も餌やりさんがしっかりするようになった」「糞尿臭や発情期の鳴き声がなくなり、多くの島民から感謝の言葉をもらっている」という報告があがっている。



～以下、一斉 TNR 実施後 4 年以上経過した島への調査項目～

対象：馬島、徳之島（徳之島は回答なし）、竹島、男木島、志々島、青島

6. 一斉 TNR 実施当時、島民間でトラブルがあったか

一斉 TNR 実施当時、島民間でトラブルが	回答数
あった	1
なかった	4

トラブルがあったと回答した 1 島は、一斉 TNR 後の島民と猫の関係について「変わらない」としている。自治会・コミュニティの理解がなかなか得られず、島外のボランティアがフードの全面支援を継続している状況である。しかし、猫が減っていること自体は好意的に受け止められており、農作物や漁網の被害がなくなったことで一部の島民からは感謝の声も寄せられている。

7. ペット持ち込みに関するルールについて

新しい居住者に対するペット持ち込みのルールがあるか	回答数
ある	0
ない	5

今後のルール作成について尋ねたところ、5 島全島が「作成予定はない」と回答。明確なルールは作成しないが「全員が猫をむやみに増やさないことに対して意識を持っており注意しあっている」「ルールは設けていないが、未手術の猫は持ち込まない」「島民の高齢化や減少により、今後新たな持ち込みは考えにくい」とのことであった。

8. 現在、猫の管理（餌やりやトイレなど）を誰が行っているか

現在、猫の管理を行っているのは	回答数
島民	5
島民以外（島外ボランティアなど）	0

島外ボランティアによるフード支援や定期的な訪問が行われている島もあるが、全島、毎日の餌やり・糞尿の掃除・見回りなどの管理は島民によって行われていた。一斉 TNR 後に理解のある移住者・協力者が現れたという報告もある。

9. 今後の課題

- 餌やりなど、猫のお世話をしていた島民の高齢化
- 島の人口減により、猫のお世話をする島民がいなくなる
といったことが今後の課題として挙がっている。

TNR 率が 100%になり、新たな猫の流入もないことから、猫の数はこの先さらに減っていくことが予想される。しかし、島民の数より多い猫への餌やり、そしてフードの確保、健康状態のチェックなどを誰がどのように行っていくのか。将来に向けて、行政や島外ボランティアとの連携がますます重要になる。

10. 総括

離島のなかには、猫を観光資源として活用している島がある。しかし、短時間の訪問で猫との触れ合いを楽しむだけの観光客とは違い、そこに暮らす島民と猫の関係は複雑だ。また、いわゆる観光目的の「猫島」ではない離島では、猫に対する考え方の違いや糞尿被害などから、より住民トラブルに発展しやすいと言える。



さらに、地域によっては、糞尿被害などを受けた腹いせに猫を海へ放り投げる、生まれた子猫を海へ捨てる・土へ埋めるといった行為が昔から行われている。

そもそも子猫が生まれなければ命を海へ捨てるという行為に及ぶ必要はなく、繁殖制限を行ったうえできちんと管理すれば、腹立ちまぎれに猫を海へ放り投げる必要もない。

今回の事後調査から、一斉 TNR によって猫の数は間違いなく減少しており、島民にもその実感があること、鳴き声や糞尿被害が軽減し苦情も減っていることが分かった。昔から続く上記のような悪しき慣習も、TNR によって変えることができると考えている。

島民と猫が穏やかに共生するために TNR は非常に有効であり、殺処分という安易で時代遅れな方法に頼らない解決が可能である。